

(科目コード : 7009220006AA)

【改訂】第8版(2015-03-13)

【科目】実用英語A

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】選択必修 【学期・単位数】前期・1単位

【対象学科・専攻】生産システム,環境 1年

【担当教員】伊藤 文彦,八鳥 吉明

【授業目標】

- 初歩的な英語で自己の考えを表現することができる
- 文法的な概念を基に、英文を書くことができる
- 英文パラグラフの基本型を理解し、それを基にして論を発展させることができる
- 大学生相当の英文を読むことができる

【教育方針・授業概要】

本科目の総授業時間数は22.5時間である。
アカデミックエッセイの基礎を培えるように指導するとともに、reading skillsも磨く

【教科書・教材・参考書等】

教科書：英語モードが身につくライティング：大井恭子・伊藤文彦：研究社：978-4-327-42187-8

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

座学。適宜、視聴覚機器を使用する予定。

【メッセージ】

英語は私たちにとって外国語ですから、その理解のために私たちは自分の母語である日本語の枠組みを基にしようとしています。それは当然なことで、非難されるべきことではありません。英語も日本語同様、主語、述語という文の構成要素があり、名詞、動詞、形容詞という品詞があります。ですから、そのような手がかりをもとに新たな言語である英語を理解し、身につけようとするのは、母語を確立した学習者の一般的な学習の仕方です。しかしながら、所詮英語と日本語は異なる言語です。あまりにも母語の枠組みにとらわれて母語と同じ発想で英語も整理しようとする、「英語らしからぬ英文」になってしまいます。

使用テキストは、特に日本語と英語とのずれに焦点を当て、日本人英語学習者にとって盲点・急所と思われるところをクローズアップしてあります。

授業に臨む心構えとして、日本語と英語の相違点をいつも意識するようにしてください。

最後に、High English proficiency will be yours by virtue of daily continuous practice. 日々の学習を大切にしてください。

【事前に行う準備学習】

授業中の指示に従い、教科書内の問題を自分で解答する。

【成績評価方法】

[前期]期末試験：80%、レポート：20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	「英語モードが身につくライティング」で扱われているライティング項目を体系的に学習する。これらの知識を基に英文を書くことができる。また、大学生相当の英文を読むことができる。	80 %	前期期末テストの実施
2	課題解決型の英語課題をこなす能力	20 %	提出課題により評価する

【本校の学習・教育目標】

(E-3) 母国語以外の外国語で自己の考えを伝える基礎的能力を獲得する

【授業計画】(実用英語A)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1		introduction		
2-7	comma、接続詞 essay1, 2 reading 1, 2	カンマの使用法。接続詞を使った英語表現の学習 academic essay 読解		
8-14	助動詞、時制(1) essay 3, 4 reading 3, 4	助動詞、時制を使った英語表現の学習 academic essay 読解		
15	about final exam	how to prepare for the final exam		